

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	新しいレプトン対称性の破れの探求
研究代表者	飯嶋 徹 (名古屋大学・現象解析研究センター・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、SuperKEKB を用いた Belle-II 実験と J-PARC のミュオン $g-2$ 実験によって、レプトンが関与した過程に関して標準理論を超える新物理の系統的な探索を行うものであり、学術的な課題が明確である。既に標準理論で説明できない現象の兆候が複数あり、これらに決着をつけられるものと期待できる。標準理論を超える物理の探索という目的は明確であり、研究方法も十分に練られている。</p> <p>また、応募者ら研究グループは、過去に Belle 実験などで十分な研究成果を上げており研究計画の遂行に問題はなく、本研究による成果は、素粒子物理学のみならず宇宙論などにも影響を与えるものと期待できる。</p>